

## 1. デマンドタクシー導入について

## (1) 運行内容

運行項目	実証運行時	事務局案
登録証	無	有
利用対象者	全市民	全市民(未就学児を除く)
運行時間	午前 8 時 30 分～午後 5 時 30 分	午前 8 時 30 分～午後 5 時 30 分
利用手段	電話連絡	電話連絡
事前予約	可	不可
運行範囲	自宅若しくは共通乗降場	乗車地、降車地のいずれか一方が 富士見市内である運行が対象
利用回数	制限無	年度内 1 2 回
利用料金	タクシーメーターの半額 上限補助金額の設定無	タクシーメーターの半額 1 運行毎の上限金額 5 0 0 円
運行事業者	協定を締結したタクシー事業者	協定を締結したタクシー事業者

## 《実証運行時と違う点》

## ①登録証について

運行事業者の情報を携帯できることや利用者からの要望も大きいことから利用登録証を発行します。

## ②事前予約について

実証運行時において、予約料について混乱を招いたことや事前予約の件数が少なかったことから、事前予約を不可とし、直前利用のみとします。

## ③運行範囲について

市外への運行要望が多くあったことから、予め決められた場所での乗降ではなく乗車地、降車地のいずれか一方が富士見市内であれば対象とします。

## ④利用回数について

年度内に利用できる回数に制限を設けます。

## ⑤利用料金の上限について

タクシーメーターの半額を補助します。

ただし、1 運行あたりの補助金額が 500 円を超えた場合は 500 円とします。

例、タクシーメーターが 900 円の場合 ⇒ 450 円の補助 450 円自己負担

タクシーメーターが 1,500 円の場合 ⇒ 500 円の補助 1,000 円自己負担

## (2) 利用回数及び補助金額の上限の設定について

### ① 制限を設ける理由

- ア. デマンド交通実証運行の結果から、利用回数が極端に多かった一部の方だけではなく、幅広く市民の方に利用していただくため。
- イ. 運行範囲を拡大したことによる 1 運行の補助金額が無制限になることを避け、持続可能な事業を展開するため。

### ② デマンド交通実証運行の結果

- ア. 市内全地域で利用があり、全地域の方に平等に提供できる交通手段でありました。
- イ. 6 ヶ月間で 100 回以上利用した人がいる一方、登録者のうち、利用したことがない人は約 71%であった。また、実際に利用した人のうち、約 40%は 1, 2 回の利用となっていることから、デマンド交通を日常生活の主たる交通手段としている人は少ないと推測できます。
- ウ. 乗車場所を「自宅」としている件数 (11,242 件) と、降車場所を「自宅」としている件数 (7,009 件) を比較すると、降車場所として「自宅」を利用している件数が少ないことから、帰宅時には、デマンド交通以外の他の交通手段を利用している方が多く、他の交通手段の利用が可能であると推測できます。

### ③ 利用回数及び補助金額の上限の設定根拠について

デマンド交通実証運行の結果、利用回数は、1 回～180 回、補助金額は、370 円～1,540 円と利用回数及び補助金額に大きな差が生じています。

そこで、大きな値の影響を受けず、傾向的な変化を捉えることができる、『中央値』という値を用いて、利用回数及び補助金額を算出しました。

ア. 実証運行時の利用回数の中央値 4 回 (6 ヶ月間) ⇒ 8 回 (1 年間)

※利用回数は、1 年間 8 回という結果でしたが、今後、制度が浸透することを鑑みた結果、年度内 12 回とします。

イ. 実証運行時の1 件当たりの補助金額の中央値 460 円 ⇒ 500 円

### (3) デマンドタクシー運行補助金の試算について

$$\begin{array}{rcccc} \bullet \text{運行補助金} & = & \text{実利用者数} & \times & \text{利用回数} & \times & 1 \text{運行当たりの補助金額} \\ 13,920,000 \text{円} & & 2,320 \text{人} & & 12 \text{回} & & 500 \text{円} \end{array}$$

$$\begin{array}{rcccc} \text{実利用者数} & = & \text{登録者数} & \times & \text{利用率(実利用者数 2,109 人/登録者数 7,238 人)} \\ \underline{2,320 \text{人}} & & 8,000 \text{人} & & 29\% \end{array}$$

#### 【登録者数について】

第9回地域公共交通会議において、「デマンド交通実証運行の登録者数(7,238人)が市民のデマンド交通に対するニーズであると捉えて良い」との意見がありました。また、市外への運行も可能とし、利便性が向上されることから、需要の微増を見込み登録者数を8,000人と想定しました。